

神戸YMCA学院専門学校  
2021年度 自己点検・評価表

1.学校の教育目標

公益財団法人 神戸 YMCA はキリスト教精神に基づき、兵庫県の青少年等の心身と人格の向上を図り、奉仕の精神をやしなひ、もって民主社会の発展に寄与するとともに、世界の平和に貢献することを目的としています。（「公益財団法人 神戸YMCA 定款」より抜粋）

そして、本校は、時代が要請する専門性に対して豊かな柔軟性をもって集中的な知識と技能の専門教育を提供すると共に、人間として確固たる信念を持ち、自らの人生を切り拓いていくことのできる青年を育成することをめざします。＜前年より変更なし＞

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

＜ホテル学科＞

ホテルスタッフ養成機関としての役割を維持しつつ、多様化する社会環境に合わせて、観光都市神戸の中でブライダル業界、ツーリズム業界との関係を強化し、就職先の拡大を目指していくこと。（2021年度の目標）

＜日本語学科＞

日本語検定等の対策授業やビジネス系の選択科目の導入、就職支援、非漢字圏からの学生への指導方法改善等に取り組んできました。当初の目的は達成されつつありますが、留学生をとりまく環境の変化により、日本語教育への期待が変化している中で、日本語教育の方向性を確認しつつ学校づくりに反映させていきます。（2021年度目標）

3.評価項目の達成及び取組状況 （評価項目は、ほぼ前年と同じ）

評価基準 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (公益財団の定款、両学科の学校案内、に明記されている)	4	3	2	1
・各学科における職業教育の特色が明確にされているか (入学案内、ウェブサイト)に明記されている)	4	3	2	1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想をいっているか (コロナの影響を考慮した次年度計画、中期計画を策定し、長期的な学校づくりを始めている)	4	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか (OC・学校説明会・入学相談等で必ず伝えている)	4	3	2	1

①今年度の評価（実施できたこと）

・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けた1年であった。社会環境の変化に伴い、学校としてもさまざまな対応を行い、当初計画とは異なる実施内容となったが、変更を加えながら学校運営をすることができた。

・ホテル学科では、就職先となるホテル観光業界への影響が大きく、就職実績としてはいまだ厳しい状況ではあるものの、昨年度よりも随分と好転をしている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の終息後の社会情勢を予測し、ホスピタリティ業界で求められる要素を加味しながら、基本となるアドミッションポリシーの再確認を行った。そして、学校として目指すべき方向性が正しいことをあらためて教職員間で共有し、学校づくりに反映していくことが確認された。

②次年度にむけての改善策（具体的な計画）

・新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、オンラインを効果的に使いながら、学生たちにとって不利な状況とならないよう、柔軟な学校運営に対応できるように進めていく。この2年間の対応において蓄積した対応方法を踏まえながらも、その時の現状に即した対応を行う。

③特記事項：（補足事項）

・特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
------	--------------------------------	--	--	--

・設置団体は学校運営者として適切な団体であるか (公益財団として適切な活動を行い、兵庫県の認定を得ている)	4	3	2	1
・目標達成にむけた運営方針や中長期計画・単年度の事業計画が策定されているか (公益財団として中期計画を策定、さらに年度毎に目標設定を行い、県へ提出している)	4	3	2	1
・事業計画にしたがって教育活動が実施されているか (新型コロナの影響により、当初計画に変更が生じた)	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、(公益財団の定款、学則、法務省省令、を遵守しながら、学科会議、主任会議、理事会等で役割分担している)	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか (公益財団の理事会/運営会議⇄カレッジ主務者会⇄学科会議の順に議題に応じて判断している)	4	3	2	1
・基本計画に従った予算執行が適切になされているか (新型コロナの影響で、大きく予算執行状況が悪化)	4	3	2	1
・人事、給与に関する規定等は整備されているか (職員：公益財団の規定で運用、非常勤教員は別途基準で運用)	4	3	2	1
・校長、主任教員及び教員は、専修学校及び日本語教育機関で求められる要件を満たしているか。 (基準を満たした上で、必要な報告・届出を行っている)	4	3	2	1
・留学生のための事務組織が整備されており、留学生の申請取次者が配置されているか。(配置されている)	4	3	2	1
・授業料等の内訳及び納付時期が明示されている。また、学費返金規定が公開されているか。(募集要項・ホームページに明記されている)	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。(公益財団として適切な活動を行っている)	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか (専修学校としての必要な情報は公開している。)	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか (順次導入をすすめている)	4	3	2	1

①今年度の評価 (実施できたこと)

- ・新型コロナウイルスの影響により、学校運営に大きな支障が生じた。特に日本語学科では、留学生受け入れがほぼ停止状態となったため、新規入学者の受入ができない状況が2年続いている。
- ・昨年度に引き続き、非常勤教員の出講日数が減少した。講師には現状説明を丁寧に行い、教授体制を整えた。さらに、職員体制変更や業務の整理を行った。(日本語学科)
- ・2021年度より日本語学科の定員変更を行うこととし、その届けを兵庫県・法務省へ提出し、受理されている
- ・両学科ともプログラムを変更して実施をせざるを得ないものがあったが、予定していたプログラムはほぼ実施することができた。

②次年度にむけての改善策 (具体的な計画)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて減少した学生数を、段階的に戻していくことを見据え、特に限られた広報活動ではあるが、学生募集に集中する。
- ・政府の入国緩和措置に対応して、現在待機している学生や AG への状況報告を行い、今後の受入手続きの準備を行う。(日本語学科)
- ・今後の入国緩和に伴う学生数の増加に合わせて、教員、職員の体制を整える。(日本語学科)

③特記事項：(補足事項、委員会等からの評価・コメント)

- ・特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、			
・教育目標に沿って修業年限に対応した到達目標が明確にされているか (ホ：科目毎に学生便覧に明記されている日：CDSによる到達目標にあわせた評価基準が共有されている)	ホテル) 4	3	2	1
	日本語) 4	3	2	1

・到達目標に合わせて教育課程・カリキュラムが体系的に編成されているか (H:授業担当毎に作成。日:されている)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか (H:実習、ホテルから講師派遣、Class in Hotel 等、は継続中。日:言語学習として口頭能力養成のカリキュラムを継続中)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、教育内容やプログラムの作成や見直し等が行われているか(H:入学前の H 見学から、授業や実習まで幅広く協働している。日:進学就職先の大学や企業を巻き込んだ特別授業や説明会等を継続中)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・関連企業や業界団体との連携により、実践的な教育(実習等)が体系的に位置づけられているか。(H:長期実習の実施、現役ホテルエを講師として授業を実施している。)	ホテル) <u>4</u>	3	2	1
・教育目標に合致した教材が選定されている。また、補助教材等は著作権法に留意されているか。(H:担当教員による選定。日:標準教材を基本に、副教材を独自で作成している)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか。(H:前後期毎に講師及び学生からの評価を実施。今年度よりスマホ入力で省作業化日:コミュニケーション力の課題があるため、ヒアリングを通して評価内容を聞き取っている)	ホテル) <u>4</u> 日本語) 4	3	<u>3</u>	2
・外部関係者からの評価を取り入れているか。(学校関係者評価<学校教育事業委員会>は行なっている。第三者評価は行っていない)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。(学生便覧に明記、オリテンで学生に徹底している)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・学習内容、学事暦、学習及び学校生活における留意点、入管法上の課題等を、学生達に伝えているか。(学生便覧に明記、オリテンや HR にて学生に繰り返し説明している)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・資格取得に関する指導体制がとられているか (H:希望者対象に対策授業、日:JLPT/EJU/BJT:必須授業として対策授業を実施、出願補助、成績管理まで実施)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる能力経験を備えた教育を確保しているか。(非常勤教員との連絡を密にして、オリテンや HR にて学生に繰り返し説明している)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・業界団体との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか (H:ホテル現場からの出講、業界経験を重視した採用を継続中)	ホテル) <u>4</u>	3	2	1
・指導者の研修や指導力育成のための取り組みが行われているか。(H:担当職員に、コロナ禍での業界の理解に関する研修をおこなった。日:オンラインでの研修に参加をしている。)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか (財団の職員研修、業界実施の研修参加等を推奨している)	ホテル) <u>4</u> 日本語) <u>4</u>	3	2	1

① 今年度の評価(実施できたこと)

- ・緊急事態宣言下ではオンライン授業を行ったが、両学科とも対面授業による実践が効果的と判断しているため、状況に応じて、感染防止を徹底して可能な限り対面授業を行ってきた。登校に懸念のある学生はオンライン授業も認めながら、柔軟な対応をとってきた。
- ・課外活動や実習において、内容変更を余儀なくされたが、通常授業においては、当初予定を実施することができた。スピーチコンテストや卒業制作発表会など、オンラインで対応可能な活動については、感染防止を意識してオンラインでの実施に変更した。
- ・ホテル学科では、引き続き新型コロナの影響を受けながらも実習については受け入れを頂き、ホテル現場設定の感染予防対策を遵守しながら、年2回の長期実習を行った。
- ・日本語学科では、新規入学生がほとんど入国できない状況ではあったが、オンラインのハイブリッド授業を行うことで、現在は入国できないが、これから入国をして対面授業を希望する学生が学びを止めることなく学習できるようにした。また入学準備のためのオンラインクラスも開講して、オンラインでの準備クラスを行った。

② 次年度にむけての改善策(具体的な計画)

- ・ホテル学科:引き続き、対面授業を継続する。そのための学内の感染予防対策は改めて学生、教員、職

員に対して徹底していく。また長期実習の実習が継続実施できるよう、ホテルとも関係を密にして本校教育活動について理解を得る

・日本語学科：留学準備のためのオンラインクラスは、今後も継続予定。オンライン環境のさらなる改善を行いながら、今後の感染状況の変化に合わせて、オンラインでの対応を可能な状態にしておく。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

・特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・就職率の向上にむけての取り組みがなされているか。 (H：実習先の評価、新たな実習先の開拓を行った。就職先との関係強化につとめた。日：資格取得のためのクラスの実施。就職クラスの充実に努めた。)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・進路指導の向上と進学率のアップに向けての取り組みがなされているか。 (日：クラス担当への適切なアドバイスの継続、進路決定までフォローを行ってきたがコロナ禍に対応した運営で困難なこともあった。)	日本語)	4	3	2	1
・資格取得率の向上にむけての取り組みがなされているか。(H：学生へ求める資質の必要性を徹底してきた。日：カリキュラムに取り込み、正規授業として実施している)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・退学者率の軽減にむけての取り組みがなされているか (両：欠席の学生へのフォローを徹底した。日：オンライン授業受講の学生に入学できないことを理由に休学者がでた。)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後の社会的な活躍及び評価を把握しているか (両：卒業生の情報シェアを職員に徹底している。)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか (両：来校したOBからの聞き取りをシェアし、必要なものを積極的に取り入れるよう配慮している。)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

①今年度の評価（実施できたこと）

- ・ホ：2年生の就職状況。27名中17名就職内定、活動中7名、進学3名。卒業後も就職活動を継続的に行う学生へは、ひきつづき就職指導を延長して行う。
- ・ホ：ホテル設定の感染予防対策を遵守しての長期実習の実施。
- ・日：JLPT=N2受験者24名、合格12名、N112名受験、合格4名、
- ・日：進学（大学院、大学、専門学校）17名、就職1名、帰国2名、進路未決定5名。
- ・来日できない新入生に対して、オンライン授業で初級レベルを指導し、来日・入学までのフォローアップを行った。また通常授業および特別な活動についてもオンラインを効果的に使いながら、学校運営を行った。
- ・日：全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会に学生が参加し、優秀賞を受賞した。

②次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・ホ：実習や就職における個別対応を丁寧実施していく。
- ・日：資格取得のための授業および留学準備のためのオンラインクラスは継続実施予定。また引き続き、感染状況悪化の場合は、オンラインを効果的に使いながら運営を進めていく。

③特記事項

・特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・就職（進路）指導に関する支援体制は整備されているか。(H：2年生担任が支援、日：担当教員を配置し、クラス担当との連携をしながら指導を進めている)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学校生活について相談する体制は整備されているか。 (日本人学生は各クラス担任、留学生はクラス担当に加えて、生	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

活指導者を配置している)					
・奨学金等の経済的な支援体制は整備されているか。 (高等教育の新修学支援制度の運用。そのた本校独自の奨学金も運用するとともに、文部科学省：学生支援緊急給付金の給付手続きを行った。)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 (在籍生対象に健康診断を実施。近隣で多言語の対応が可能な医療施設の情報を整備している)		4	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。 (両：年間計画の中に含めて実施しているが、内容変更は余儀なくされた。)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・住宅やアルバイト、在留資格等の学生の生活環境への支援は行われているか。(両：生活指導担当者がフォロー)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・保護者と適切に連携をしているか。 (両：定期的な成績報告、必要に応じた連絡を実施している)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか。 (両：Facebookによる情報発信、来校舎のフォローを実施)	ホテル)	4	3	2	1
	日本語)	4	3	2	1

①今年度の評価(実施できたこと)

- ・文科省の学生支援緊急給付金の活用に加えて、ワイズメンズクラブやコープこうべ等の団体から、食料品や生活物資の寄贈を受け、留学生や下宿生を対象に寄贈品の提供を行った。
- ・コロナ感染防止に向けて、さまざまな注意喚起を行いながら、授業継続が可能な適正な環境の整備・維持を行ってきた。大きな混乱や陽性者発生による休校をすることもなく、学校運営を継続した。
- ・入国時の待機期間中のサポートを行なった。(送迎、待機場所の調整、オンライン授業など)

②次年度にむけての改善策(具体的な計画)

- ・次年度も関係各位へ支援要請をして、学生たちへの物資支援を行っていく。
- ・ホテル学科は公式 line ページの運用を開始する。

③特記事項：(補足事項、委員会等からの評価・コメント)

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、
・教育機関として適切な位置環境にあるか、兵庫県及び法務省の基準を満たしているか。(専門学校として、兵庫県私学の認可、日本語教育機関として法務省の認定済)	4 3 2 1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるよう整備されているか(定期的な清掃とメンテナンスを実施)	4 3 2 1
・学校外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか(企業や研修の受入機関との連絡を徹底している)	ホテル) 4 3 2 1
・防災に対する体制は整備されているか(上層階に介護施設があり、より厳しい基準の避難訓練を実施)	4 3 2 1

①今年度の評価(実施できたこと)

- ・コロナ禍での授業運営にむけて、教室内でのソーシャルディスタンスの確保や消毒液等の整備、アクリル板設置等、可能な限りの環境整備を行った。
- ・オンライン授業の実施可能な環境を各教室にて拡大・整備を行った。

② 次年度にむけての改善策(具体的な計画)

- ・両：コロナ禍での授業運営が継続されるため、引き続き感染防止対策の徹底を継続すること。
- ・ホテル：2021年度に引き続き、ホテル現場での実習ができるように、ホテルとの関係性を構築する。
- ・日本語：より整ったオンライン環境の整備を行う。

③ 特記事項：(補足事項、委員会等からの評価・コメント)

(7) 学生募集活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・学生募集活動は、受入方針を定め、募集計画を策定し、計画に従って適正に行われているか (両：年度毎に募集計画を策定・実施している。)	ホテル) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
	日本語) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
・学生募集活動において、学校情報提供や入学相談を行っているか (両：実施している)	ホテル) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
	日本語) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
・学生募集活動において、教育内容や教育成果は正確に つたえられているか。(説明会資料に含めている)	ホテル) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
	日本語) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
・学費等の学生納付金は適切なものとなっているか。 (両：なっている。学費改定は理事会承認が必要)	ホテル) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
	日本語) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
・海外の募集代理人 (AG) の行う募集活動が適切に行 われていることを把握しているか。(AG の評価、改善の申 し出、継続の有無を判断している)	日本語) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
・入学選考基準及び方法が明確化されているか (両：募集要項に明記されている。面接後に判定会議を行い、合 否を判断している。)	ホテル) <input type="text" value="4"/>	3	2	1
	日本語) <input type="text" value="4"/>	3	2	1

①今年度の評価 (実施できたこと)

- ・ホテル：オンラインでの説明会を定期的実施。
- ・ホテル：学校が目指す学生像と指導内容を正確に伝えることを徹底し、学校と学生の乖離を極力少なくすることを目指した。
- ・日：各国を訪問しての募集活動はできないため、オンラインやメールでの海外とのコンタクトをとりながらの募集活動をおこなった。
- ・日：リスティング広告を行い、OB や関係機関からの紹介を募集の基本として確認を行った。新たな AG との交渉をして、学生紹介をうけた。
- ・日：神戸市ビジネスセンターの商談会に参加し、現地大学や日本語学科との関係構築と事業協同の交渉を行った。
- ・日：ベトナムの高校に対して、学校の授業の一環として日本文化紹介や学校紹介を計 5 回実施をした。

② 次年度にむけての改善策 (具体的な計画)

- ・ホテル：引き続きオンラインと対面の併用しながら、オープンキャンパスを定期的開催していく。
- ・ホテル：公式 LINE ページを運用するとともに、現在ある SNS の情報アップの頻度をあげ、より学校からの発信を増やすことによって、より多くの認知を得ることを目指す。
- ・日本語：リスティング広告を継続させ、より HP への訪問者を増加させて、学校の認知を得ることに取り組み、国内での口コミ紹介を誘引することを狙う。

③ 特記事項：(補足事項、委員会等からの評価・コメント)

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか (コロナの影響が直撃し、留学生の来日はほぼ期待できない。21 年度の回復に期待)	<input type="text" value="4"/>	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか (入学予想数にあわせた予算編成を行っている)	4	<input type="text" value="3"/>	2	1
・財務について会計監査が適切に行われているか (公益財団として会計監査を実施している)	<input type="text" value="4"/>	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか (公益財団の過去 3 年分の貸借対照表を公開している)	<input type="text" value="4"/>	3	2	1

①今年度の評価 (実施できたこと)

- ・新型コロナウイルスの影響により、日本語学科生が来日できず、想定以上の入学学生数の減少があったため、年度予算とは乖離することとなった。また、さまざまな活動が変更や中止を余儀なくされたため予算と乖離した執行状況となった。
- ・感染予防策やオンライン授業の環境設定に係る支出が増えたが、プログラムに係る直接経費は減少した。
- ・学生募集に集中し、財務状況の改善に努めること。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）  
 コロナ禍前の財務状況を目標にして、段階的にその数値に戻していく。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか（両：各種届出を遵守している）	兵庫県） 法務省）	4 4	3 3	2 2	1 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか（両：書類／諸データの管理を徹底している）		4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点改善を行っているか（両：今年度で2年目）					
・関係省庁、法務省入管局への届出・報告を行っているか（両：定期報告の実施、各種届出を遵守している）		4	3	2	1

① 今年度の評価（実施できたこと）

- ・兵庫県私学課へ、日本語学科の定員変更を行った。合わせて、法務省へも同様の届を行った。
- ・新型コロナに関連するさまざまな調査や報告について、必要な関係機関への報告を行った。

② 次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・引き続き継続する。

③ 特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか。 （両：21年度は秋祭りを中止。その他、新型コロナウイルス感染防止の観点から活動、及び施設利用を減少させた。）		4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励・支援しているか （YMCAボランティア活動への参加の機会が減少）		4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか （両：必要に応じて実施する）		4	3	2	1

①今年度の評価（実施できたこと）

- ・新型コロナの影響で、秋祭りやさまざまなイベントが中止となったが、保育園との国際交流事業で中国の学生が参加し、園児との交流プログラムを行った。
- ・公財）兵庫県国際交流協会より兵庫県地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業を委託し、オンラインでの研修事業を実施した。

②次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・本校施設を利用し、関係団体の人材の協力を得て、神戸市子ども家庭局こども未来課から打診のあった「子育て世帯への職を通じたつながり支援事業」の実施に取り組む。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

(11) 留学生の入国在留支援について

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1、				
・留学生の受入れについて、戦略をもって行っているか （両：国の施策の変化に合わせて、調整をきている）		4	3	2	1

・留学生の受入れ、在籍管理等において正確な情報収集、適切な手続き等がとられているか（両：行っている）

4

3

2

1

①今年度の評価（実施できたこと）

- ・日本語学科を中心に、国の入国審査や施策を確認し、適切な対処を行ってきた。
- ・留学生に対し、ホームルームにおいて、生活状況調査を定期的に行い、学生の状況の変更等の把握に努めた。
- ・関係省庁、入国管理局等の HP や県からの通達など、その内容を踏まえながら、関係団体の情報、協働する日本の YMCA の留学生事業、および海外の YMCA やエージェントからの情報も得ている。

②次年度にむけての改善策（具体的な計画）

- ・引き続き、正確な情報を関係省庁、団体から得て、適切な手続きを行っていく。

③特記事項：（補足事項、委員会等からの評価・コメント）

- ・特になし

4.学校評価の具体的な目標、計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染症の影響を昨年に引き続き受けて、度々のプログラム変更、オンライン授業への移行などの通常にはない運営への対応が続いた一年であった。

ではあるものの、これまでの対応の蓄積から、大きく混乱をするという状況はなかった。昨年は実施できなかったホテル実習も感染予防対策を徹底したうえで実施され、オンライン授業や実施形態の変更を通して、予定していた内容は実施することができた。引き続き、感染防止に配慮しながら、次年度の運営につなげていきます。

ホテル学科に関して、一旦は、ホスピタリティ業界のコロナ被害が大きく、実習受け入れや就職が厳しい状況に陥ったものの、今後の業界の復活に合わせて、就職や実習環境が改善されることが見込まれるため、学校として業界との関係構築を継続し、コロナ後のホスピタリティ業界の変化をみながら、指導内容の点検を行っていきます。

日本語学科に関しては、この3月からの入国緩和政策に対応して、これまで母国で自らの将来を夢見て日本への留学を待ち続けた学生たちを、入国させることが必要だと考えています。加えて、新型コロナウイルス感染症に伴う社会の状況に合わせて、適正な学校運営に戻していくこと、つまり学生数をコロナ前の数字に戻していくために、学生募集に全力を傾けていきます。これからの日本において、外国人との共生は必須であり、再度、日本語教育の必要性を認識したうえで、学校の運営状況改善にむけて取り組んでいきます。